

復興へ

これまでに延べ1万4471人（9月12日現在）のボランティアが、総社市の復興のために汗を流してくださいました。心よりお礼申し上げます。



■起爆剤になった中高生

豪雨災害に立ち上がったのは市内の中高生でした。SNSでの呼び掛けで市役所に集まった中高生らは7月8日に約700人、翌9日は約1000人にのぼり、若い力が復興へと続く起爆剤になりました。

これを機にボランティアの輪は広がりました。14日から16日までの3連休では全国から約3000人が参加。被害の大きかった下原や昭和地区で災害ごみの搬出などを行いました。

22日と23日には、熊本地震の際に総社市がテント村を設営した熊本県益城町から、震災の被災者が来総。支援のお礼にと、昭和地区の被災家で復旧活動を行いました。

■全国からの支援物資はフリーマーケットで提供

発災直後、全国から数多くの支援物資が寄せられました。種類が多岐にわたっていたため、市は市役所南側車庫を開放しフリーマーケットを開設しました。

フリーマーケットでは物資を食料・飲料・衣類・日用品・作業用具などに分けて配置。仕分けと整頓をボランティアに受け持ってもらい、被災者のニーズに応えました。

これまで被災地では被災者のニーズと支援物資にずれが生じることがありました。このフリーマーケットでは、被災者が必要なものを自由に選んで持ち帰るシステムにしたことで、注目を集めました。



発災後に開設した支援物資のフリーマーケットには被災した市民をはじめ、倉敷市真備町の被災者も多数訪れた

総社市への支援金 ありがとうございました

5億300万円

（9月7日現在）

平成30年7月豪雨（西日本豪雨）に伴う支援金は9月7日までに、個人と団体を合わせて5億300万2880円（県からの義援金を含む）をお寄せいただいています。

支援を賜りました皆さまに心よりお礼申し上げます。支援金をお寄せいただいた全員のお名前を掲載するのが本意ではございますが、紙面の都合上100万円以上の高額寄付をいただいた個人・団体のみ掲載させていただきます。ご了承ください。

■高額寄付者（8/6～9/7）

公益財団法人風に立つライオン基金、社会福祉法人経山会、三菱自動車工業株式会社（2度目）、あみ・ムジーク・カフェ、総社ロータリークラブ、宮城県仙台市、株式会社岡山情報処理センター、八名信夫

【順不同、敬称略】

被害状況

り災証明書発行件数

全壊	大規模半壊	半壊	一部損壊
152	279	499	651

9月12日現在

西公民館前で建設された仮設住宅（9月12日撮影）



■各方面から支援の手

全国から駆けつけた17自治体、り災証明書の発行業務や避難所運営など、8自治体が避難所の巡回相談業務などに従事。このほか多くの自治体から物資や支援金の提供をいただいています。

また、総社市環境観光大使の野口健さん、総社赤米大使の相川七瀬さんをはじめ、さだまさしさん、有森裕子さん、紗栄子さん、湘

■住居の提供を急ぐ

下原や昭和地区などで家に被害を受けた人のために、住居の確保が必要とさ

南乃風の若旦那さんらが、物資の提供や避難所の激励などに訪れました。音楽プロデューサーの小林武史さんは、総社カルチャーセンターを拠点とした「Bank総社ボランティアハウス」を立ち上げ支援にあたりました。

れました。

上原にある旧雇用促進住宅を市が35戸借り上げ、7月22日から下原地区の被災者に提供。西公民館前では、東日本大震災の被災者が入居していた木造の仮設住宅を福島県から譲り受け、11棟22戸を建設。9月15日から入居しました。

昭和地区でも13棟26戸分の建設が8月下旬から始まり、10月初旬までに入居する見込みです。